

勝山ニ稻葉正明ヲ館山ニ封ジ、最後ニ平岡道弘、封ヲ船方ニ受ク、王政革新、勝山ヲ改テ加知山トナシ、長尾本多花房西尾忠篤二藩ヲ徙封シ、船方ノ地ヲ收ム、凡テ四藩既ニシテ皆改テ縣トシ、又廢シテ木更津縣ヨリ兼治シ、更ニ千葉縣ヨリ兼治ス、

〔古語拾遺〕天日鷲命之孫、造木綿及麻并織布註、仍令天富命率日鷲命之孫、求肥饒地、遣阿波國殖穀麻種略、天富命更求沃壤、分阿波齋部率往東上、播殖麻穀略、阿波忌部所居、便名安房郡今安房國、

是天富命即於其地立太玉命社、今謂之安房社、故其神戶有齋部氏也、

〔古事記中景行〕此之御世略、定東之淡水門、

〔古事記傳二十六〕定東之淡水門、東は阿豆麻アヅマと訓べし、阿豆麻アヅマてふ名は、倭建命の後に始まり、淡

は安房國なり、東之と云は、四國の阿波書紀に五十三年秋八月、天皇詔群卿曰、朕願愛子、何日止

乎、冀欲巡狩小碓王所平之國、是月乘輿幸伊勢、轉入東海、冬十月至上總國、從海路渡淡水門云々、

そも、此時淡はいまだ一國の名には非ず、上總國の内にて、其水門ミヅカドと云は、安房と相模國御

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

浦郡の御崎今も御崎と云との間を、大海より入海に入る海門ウミカドなり、此入海は、東は上總、西は武藏、北は

〔古事記神武〕神八井耳命者中略長狹國造也、

〔古事記傳二十〕長狹國造、和名抄に安房國長狹郡奈加佐是なり、中略上總國夷濲郡にも、長狹郡

〔先代舊事本紀十國造〕阿波國造、志賀高穴穗務成朝御世、天穗日命八世孫彌都侶岐命孫、大伴直大瀧、定賜國造、

〔續日本紀八元正〕養老二年五月乙未、割上總國之平群、安房、朝夷、長狹四郡、置安房國、